

**I. 全聖書は、神、人、サタンについての事柄の記録です。ですから、私たちは聖書を読むとき、神と人についての事柄を知るだけでなく、サタンについての事柄も知る必要があります。****A.** 神が地を創造する前、サタンは神によって創造された天使、また油塗られたケルブでした。彼は天使たちの間で最高の者でした。**B.** 神に対するサタンの反逆は、イザヤ14:13~14とエゼキエル28:15~18で啓示されています/サタンが神に反逆したのは、サタンの心の中の高ぶりのゆえでした。彼の心は自分の美しさのゆえに持ち上げられました/サタンの意図は、神の権威を覆し、自分自身を高く上げて神と同等になることでした。サタンは神に対する反逆の中で、神と同じ水準に在ることを願いました。**C.** サタンは反逆のゆえに、神の内敵、神の敵となりました/「サタン」は「内敵」を意味します。神の内敵として、サタンは神に反対します/「敵」は神の王国の外側の反対者を指していますが、「内敵」は神の王国の内側からの反対者を指しています/サタンは神の王国の外側の神の敵であるだけでなく、神の王国の内側からの神の内敵でもあって、神に反逆します。

**II. ヨブ記第1章と第2章における光景は、ヨブについて天で持たれた二つの会議を描写しています。****A.** 神はヨブに対して愛の関心があったので、天で二つの会議を持ってヨブについて論じました。**B.** 「神の子たち」、すなわち天使たちが来てエホバの御前に立ち、サタン、すなわち内敵も彼らの間に来ました。**C.** 神は彼の知恵と主権において、サタンに対する神の裁きを執行したのではなく、サタンにある限定的な時間を与えて、あることを行なわせ、いくつかの消極的な必要に応じさせ、神のエコノミーを完成するようにしました。』

**III. サタンは彼の王国、すなわち暗やみの権威を持っています。****A.** サタンは、彼の権威と彼の使いたちを持っています。彼の使いたちは彼の従属者たちであり、この世の暗やみの支配者たち、権威者たち、世の支配者たちです。ですから、サタンは彼の王国、すなわち暗やみの権威を持っているのです。**B.** サタンはこの世の支配者、また空中の権威の支配者です。

**IV. 主イエスは、地上での彼の務めと十字架での彼の死を通して、サタンに対して勝利を得ました。****A.** 勝利を得たキリストは、彼の地上の務めにおいて、悪魔を打ち破り、彼のわざを破壊しました。**B.** 勝利を得たキリストは、十字架につけられたとき、この世の支配者を追い出し、悪魔を滅ぼし、支配者たちや権威者たちはぎ取られるようにし、死を廃棄しました。**C.** 神は王国の福音を通して、人々を天の権威の支配の下にもたらしめます。それは、彼らが神の王国、すなわち神の権威によって支配される者となるためです。

**V. キリスト・イエスにある信者、また神の子供たちとして、私たちはキリストの中でサタンに対して勝利を得ることを学ぶ必要があります。****A.** 私たちはサタンの陰謀を知らないべきではありません/「陰謀」と訳されたギリシャ語は、「計画、計略、もくろみ、たくらみ、意図、目的」を意味します/邪悪な者、サタンはあらゆることの背後にいて、あらゆることの中で、召会生活の中でさえ働きます。**B.** 私たちは神のすべての武具を身に着けて、悪魔の策略に敵対して立つことができるようになる必要があります。

**C.** 私たちは、私たちの内敵である悪魔に対して、目を覚ましている必要があります。彼は「ほえたける獅子のように、歩き回って、だれかを食い尽くそうと捜し求めています」/目を覚ましていることは、戦いの中にいるように、前線の兵士のように警戒していることです/ I ペテロ5:8の「目を覚まして」という言葉は、戦うことを暗示します。私たちは戦いの中にいるので、警戒する必要があります/私たちは警戒しているなら、私たちの内敵に抵抗し、私たちの信仰にあって堅固になります/抵抗することは、反抗することや苦闘することではなく、堅く立つことです。それはほえたける悪魔の前で、私たちの信仰の土台の上に、岩のように堅く立つことです/ I ペテロ5:9の「[あなたがたの]信仰」は、信者たちの主観的な信仰を指しており、それは神の守る力と愛の関心を信じることです。**D.** 私たちがサタンに対して勝利を得る最上の道は、ミングリングされた霊の中で生きることです。』

**VI. 「平安の神が速やかに、サタンをあなたがたの足の下に踏み砕かれます」(ローマ16:20):****A.** サタンを踏み砕くことは、召会生活と関係があります。召会生活は、神がサタンに勝利を得る最も有力な手段です。**B.** ローマ16:20の「あなたがた」と訳されたギリシャ語は複数であり、からだを指しています。**C.** サタンを私たちの足の下に踏み砕く方が平安の神であることは、意義深いのです。

**VII. 男の子が神の御座に携え上げられた後、天で戦いがあり、サタンとその使いたちは地に投げ落とされ、神の王国が現れます。****A.** 男の子は勝利者たちから成っており、彼らは召会に代わって立ち、全召会が取るべき地位を取り、召会の働きを行ないます/男の子は常に、神の敵サタンに対する地上での継続的な戦いに従事しています/天が待っているのは、男の子(勝利者たち)が天にやって来て、戦いを進行させ、サタンを天から投げ出すことです。**B.** 悪魔、すなわち訴える者は、今や昼も夜も神の御前に信者たちを訴えています。しかし、男の子を構成し、神の敵サタンによって反対され中傷された、勝利を得た信者たちは、彼に打ち勝ちます/彼らがサタンに打ち勝つのは、「小羊の血のゆえに」です/小羊の血は、私たちの贖いのためであり、私たちに敵対する悪魔のすべての訴えに神の御前で答え、悪魔に対する勝利を私たちに与えます/私たちは悪魔の訴えを感じる時はいつも、この血を適用する必要があります/彼らがサタンに打ち勝つのは、「彼らの証しの言のゆえに」です/彼らの証しの言は、悪魔が主によってすでに裁かれていることを証しする彼らの言葉です/私たちは悪魔の訴えを感じる時はいつも、言葉を発して、悪魔に対する主の勝利を宣言すべきです/勝利者は自分の魂の命を愛しません/自分の魂の命を愛さないことは、サタンに打ち勝つための根拠、サタンに対する私たちの勝利の根拠です/自分の魂の命を愛さないことが意味するのは、私たちが進んで自分自身の魂の命を捨てること、また自分自身の魂の命を顧慮しないことです/サタンが恐れるのはただ一種類の人、すなわち、自分自身の魂の命を愛さない人です。**C.** 男の子は、神の最も重要な時代の行動と関係があります/神はこの時代を終わらせ、王国の時代をもたらすことを願っています。このために神は、男の子を彼の時代の手段として持たなければなりません。



**CP1:** サタンは心の中の高ぶりのゆえに神に反逆した。あなたが高ぶるとサタンの追従者になり、神はあなたに敵対する。しかし、へりくだれば恵みを与えられる

**OL1:** 全聖書は、神、人、サタンについての事柄の記録です。ですから、私たちは聖書を読むとき、神と人についての事柄を知るだけでなく、サタンについての事柄も知る必要があります。**OL2:** サタンは、「暁の星、夜明けの子」であり、宇宙の「夜明け」の時に神によって創造された最初の天使のかしらとなりました。油塗られたケルブは、神に最も近い者であり、王職と祭司職の両方を持っており、神の被造物の中で最高の地位を保持していました。

**OL3:** サタンが神に反逆したのは、サタンの心の中の高ぶりのゆえでした。彼の心は自分の美しさのゆえに持ち上げられました。サタンは、自分の美しさを見つめて高ぶったのです。彼は自分の輝きを見て腐敗しました。神が自分をそのようにしてくださったのを見て、神ご自身を忘れることは、常に高ぶるようと私たちを誘惑します。高ぶりが、サタンの反逆の原因でした。ですから、使徒は、「初信者」が召会の長老になることを、決して許しませんでした。それは、「高ぶって盲目になり、悪魔が受けた裁きに陥ることがないためです」( I テモテ3:6)。すべての天然の美德や属性、すべての霊的な賜物は、私たちを高ぶらせるよう悪魔に利用されることがあり得るのです。...高ぶった悪魔はなおも、高ぶった者たちを食い尽くそうと捜し求めて、歩き回っています。彼に「抵抗」する唯一の道は、自分を「へりくだらせ」、「謙その帯を締める」ことです。なぜなら、「神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられる( I ペテロ5:5)」からです。主イエスはこの事柄で良い模範です。サタンは自分自身を高く上げましたが、主イエスは「ご自身を低く」されました。こうして、主はサタンに打ち勝たれ、サタンは彼の中では何も持ちませんでした。**OL4:** 神は彼の知恵と主権において、サタンに対する神の裁きを執行したのではなく、サタンにある限定的な時間を与えて、あることを行なわせ、いくつかの消極的な必要に応じさせ、神のエコノミーを完成するようにしました。神は彼の多くの良い天使たちのだれにも、ヨブを傷つけるのに必要なこと、すなわち、ヨブが神に満たされるために、ヨブのあらゆるものをはぎ取ることを求めることはできず、またそうしようとしませんでした。ヨブ2:4-7 サタンは...言った、「...まことに人は、自分の命のためなら、持っているすべてを与えます。しかし、あなたの御手を伸べて、彼の骨と肉に触れてみてください。彼は必ずあなたの御顔に向かって、あなたをのろうでしょう」。エホバはサタンに言われた、「見よ、彼はおまえの手にある。ただ彼の命に触れるな」。サタンはエホバの面前から出て行き、ヨブを足の裏から頭の頂まで、ひどい腫れ物で討った。

**OL5:** ヨブ記1章と2章の光景が私たちに見せているのは、サタンがなおも自由であり、ことさら神によって醜悪な道具として用いられ、神の愛する者に対する神の厳格な対処を執行するということです。

**適用:新人及び青少年・大学生編**

青少年と新人の皆さんは、神が与えてくださった自分の天然の長所あるいは霊的な賜物を見て高ぶってはいけません。あなたにそのような良い点があるのは神の恵みです。サタンのようになり、自分の素晴らしさ、美し

さを見て高ぶって、神を忘れてはいけません。I コリント 15:10 しかし、神の恵みによって、今の私があるのです。I ペテロ5:5 同じように、若者たちよ、年長者たちに服従しなさい。またあなたがたは皆、互いに謙その帯を締めなさい。なぜなら、神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。FN「**謙遜の帯を締めなさい**」:この比喻は明らかに、主がいかにタオルを腰に巻いて、ご自身を低くし、弟子たちの足、特にペテロの足を洗ったかについての、ペテロが受けた印象から来ています。6 ですから、神の力ある御手の下にへりくだらされなさい。それは時至って、彼があなたがたを高く上げてくださるためです。7 あなたがたの心配事をすべて、神に投げてしまいなさい。なぜなら、あなたがたに関することを、彼は心にかけてくださるからです。8 慎んで、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔は、ほえたける獅子のように歩き回って、だれかを食い尽くそうと捜し求めています。FN「**捜し求めて**」:ペテロはここで、迫害の中で苦しんでいる信者たちに警告しています。もし彼らが、神の力ある御手の下にへりくだらされようとせず(6節)、また彼らの心配事を神に投げてしまわないなら(7節)、ほえたける獅子、悪魔、彼らの敵によって食い尽くされるでしょう。このことは、高ぶりと心配事が、私たちをほえたける獅子の飢えを満たす絶好の獲物にすることを教えます。

**兄弟の証し:**「私は以前、小さな成功を収めた時、例えば学校のテストで優れた成績を収めた時、あるいは集会で預言して兄弟姉妹が大声でアーメンしてくれた時、心の中で密かに、『私は優れている。主の助けがあるとはいえ、他の人より私のほうが優れているのではないか?』とつぶやいていました。しかし、神のはぎ取る外側の環境と内側の聖霊の照らしに感謝します。ある時、高ぶりのゆえに会社で上司と上手くいかず、上司にいじめられました。その時、心の中で不平を言っていたが、霊に戻り祈る時、聖霊が照らして下さり、自分の高ぶりを主が対処するために、上司が用いられていることが分かりました。私は徐々に次のことを認識するようになりました。

- ①『天然の能力も霊的な能力も主が与えてくださったもので、主の恵みがなければ、今の私はいない』、
- ②『小さな高ぶりを放置しておく、高ぶりの菌が増殖して、手が付けられなくなるので、小さな高ぶりが出てきたらすぐに容赦せず、対処しなければならない』、
- ③『決してサタンの誘惑に乗って高ぶり、サタンの追従者となってはいけない』、
- ④『今、主を愛し、主の回復の中で、地方召会の中にあることができるのは、主のあわれみと恵みである』、
- ⑤『祝福の源は神であり、私自身ではないので、自分に信頼せず、主を仰ぎ見て、主に信頼し、主と一つにならなければならない』。

そして、私は高ぶることを恐れるようになりました。高ぶりを徹底的に対処し初めてから、ビジネスライフにおいても、自分の想像を超えた祝福を得ることができるようになりました。私はあらゆる高ぶりに警戒し、少しでも高ぶりが出てきたら、すぐに徹底的に対処することを訓練して祝福されました。Apart from Christ, I'm nothing but sin. But in Christ, I can do all things! (キリストから離れると、私はただ罪でしかありません。しかしキリストの中で、私はすべてのことを行うことができます)。アーメン!」



## CP2: 思いを霊に付け、十字架に留まれば、キリストの十字架の勝利の中でサタンに勝利することができる

**OL1:** サタンは彼の王国、すなわち暗やみの権威を持っています。**OL2:** 私たちは違犯と罪の中に死んでいたとき、「この世の時代」にしたがって歩いていました。この世の時代とは、この世の現代の外観、この世の現在の潮流であって、サタンの体系です。**OL3:** 主イエスは、地上での彼の務めと十字架での彼の死を通して、サタンに対して勝利を得ました。Iヨハネ3:8 神の御子が現れました。それは、彼が悪魔のわざを破壊するためです。ヘブル2:14 それは、彼が死を通して、死の権能を持つ者、すなわち悪魔を滅ぼすためであり。**OL4:** 勝利を得たキリストは、彼の地上の務めにおいて、悪魔を打ち破り、彼のわざを破壊しました。勝利を得たキリストは、十字架につけられたとき、この世の支配者を追い出し、悪魔を滅ぼし、支配たちや権威たちがはぎ取られるようにし、死を廃棄しました。神は王国の福音を通して、人々を天の権威の支配の下にもたらしめます。それは、彼らが神の王国、すなわち神の権威によって支配される者となるためです。

サタンは「永遠に」ゴルゴタで打ち破られました。こういふわけで、ゴルゴタの小羊に結合し、ゴルゴタにおける彼の勝利の土台の上に立ち、別の新しい勝利を獲得しようとせず、ただ一つの勝利を現在の戦いで表現する者はすべて、勝利を得るでしょう。敗北は、自己に信頼することからやってきますが、勝利は、ゴルゴタの立場に立つことからやってきます。ゴルゴタが勝利の場所です!

**OL5:** 邪悪な者、サタンはあらゆることの背後にいて、あらゆることの中で、召会生活の中でさえ働きます。神のすべての武具を身に着けることは、私たちが悪魔の策略に敵対して立つことができるようにします。エペソ6:12 私たちの格闘は血肉に敵対するものではなく、支配者たちに、権威者たちに、この暗やみの世の主権者たちに、天上にいるあの悪の霊の勢力に、敵対するものだからです。

**OL6:** いと高さ方の聖徒たちに対するサタンの策略の一つは、彼らを疲れさせることです。私たちは、サタンが私たちが疲れさせているのを見ると、彼の疲れさせる戦術に抵抗し反対する力を持ちます。**OL7:** サタンが侵入することができない唯一の場所があります。それは私たちの霊です。私たちがサタンの権威の下にいるかどうかは、私たちが行なうことによって決定されるわけではありません。そうではなく、それは、私たちが霊の中にいるか、あるいは肉の中にいるかによって決定されます。Iヨハネ5:18 神から生まれた者は自分自身を守り、邪悪な者が彼に触れることはありません。

IIテモテ4:22 主があなたの霊と共におられますように。

私たちは霊の中にとどまる時、実行的にかからだの中で建造されます。しかし、もし思いの中にとどまるなら、私たちは分裂するでしょう。これは召会生活の中だけでなく、結婚生活においてもそうです。もし私が自分の思いの中にとどまり、妻が彼女の思いの中にとどまるなら、私たちが一つであることは不可能でしょう。私は思いの中にとどまっていることへの健全な恐れを持つことを学びました。...私たちが人のことを批判的に考えているのに気づく時、直ちに私たちの霊の中の主に帰り、祈る必要があります。私たちはみな霊に戻り、そこにとどまるという学課を学ばなければなりません。

## 適用: 奉仕者編

あなたは霊の中に留まり、十字架に留まる必要があります。霊の中で十字架に留まれば、あなたはキリストの十字架の勝利の中でサタンに勝利することができます。ローマ8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。FN「**思い**」: 思いは、人の人格、パースンである魂の主導的な部分です。ですから、思いは魂、すなわち人自身を代表します。この章では、思いは中立であり、再生されミングリングされた霊と、墮落した体、肉との中間にあります。もし思いが、再生され、神の霊とミングリングされている霊に依り頼み、結び付くなら、私たちがこの霊と、命の霊の法則である神聖な霊の享受の中に、もたらしすることができます。もし思いが肉に結び付き、独立して行動するなら、私たちが肉にもたらし、神に敵対させ、神を喜ばせることができないようにします。

思いを肉に付けると、サタンの語りかけを受け入れ、エバのように善悪知識を食べて、サタンと一体になります。サタンである善悪知識の木は、邪悪なことを含んでいるだけでなく、神から独立した表面上の善も含んでいます。そして、生活の中で死をまき散らしてしまいます。これは非常に恐ろしいことです。例えば、あなたがある兄弟姉妹と一緒に奉仕をした後、彼らを憎み、批判し始めます。聖書はこのことを「打ちたたく」と表現しています。このような考えは悪魔サタンから来ており、このような肉の思いに留まることの結果は、死と分裂です。人々の間の不和と分裂、夫婦の間の離婚等はすべて肉の思いから来ています。この世では批判、憎しみ、分裂は当たり前ですが、神の王国ではそれらの肉の働きの余地はありません。あなたは召会生活の中の奉仕において、徹底的に肉からの思いを除き去らなければなりません。決して言い訳を言ったり、少しぐらい構わないのではないかといい、肉の思いを容認してはいけません。あなたは、「主よ、私の兄弟姉妹を嫌い、批判し、憎む感覚は肉の思いであり、死です。私は自分の思いから、これらの死の感覚を徹底的に排除します。私の思いを肉と死に開きたくありません。思いを霊だけに開きたいです。私は思いを肉に付けることを恐れます」と祈ってください。サタンの原則は分裂であり、神の原則は一です。そして、実際的には分裂は、思いを肉に開くことから来ており、一は思いを霊に開くことから来ます。ガラテヤ5:19 肉の働きは明白です。すなわち、淫行、汚れ、好色、20 ...敵意、争い、しつと、怒りの爆発、党派心、分裂、分派、21 ねたみ、...それらについて、私は前にも言っておいたように、今もあらかじめ言っておきます。そのような事を行なう者は、神の王国を継ぐことはありません。

**兄弟の証し:** 「一緒にブラザーズハウスに住んでいた兄弟が、神経が非常に細く、プライドの高い人でした。私は性格が合わないで困っていました。しかし、そのままにしておくと、一緒に住んでも互いに心が離れて行き、内面的に分裂してしまうと感じ、霊に戻り、祈りました。『主よ、私が建造されるようにしてください』。そして、彼の少し高ぶった態度を受け入れ、自分の失敗を彼に告白しました。その結果、心が通じるようになりました。祈り: 『主イエスよ、思いを肉に開くと善悪知識の木から食べ、サタンと一体化してしまいます。思いを霊に付け、命と平安を実際として経験できますように。アーメン!』



**CP3:勝利者のランドマーク:①小羊の血、②証しの言葉、③自分の魂の命を愛さない、④からだの生活を実行する**

**OL1:**「平安の神が速やかに、サタンをあなたがたの足の下に踏み砕かれます」(ローマ 16:20)。**OL2:**ローマ 16 章は、宇宙的な意味でのからだを指しているのではなく、からだの地方的な実行上の表現を指しています。サタンを対処することはからだの事柄であって、個人の事柄ではありません。**サタンはただ、諸地方召会におけるからだの実行上の表現の足の下にのみ、踏み砕かれることができます。****OL3:**私たちは内側から彼によって徹底的に聖別されるとき、あらゆる事で彼と人に対して平和を持ちます。神の平安が私たちの心と思考を護衛し、歩哨に立ちます。なぜなら、平安の神はキリストの中で私たちの心と思考の前を巡回し、私たちを落ち着かせ、静めてくださるからです。**ローマ 12:5** 私たちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです。

パウロは推薦とあいさつを通して、私たちをキリストのからだ全体のブレンディングの生活にもたらし、平安の神に、サタンを私たちの足の下に踏み砕かせ、私たちがキリストの豊富な恵みを楽しむことができるようになります。ローマ 16 章で、使徒パウロは聖徒たち一人一人にあいさつし、...少なくとも二十七名の名前を述べました。さらに、彼は普遍的に聖徒たちにあいさつしました。これは、彼が彼らのすべてに関して多くの認識、理解、関心を持っていたことを示します。そのような推薦とあいさつは、聖徒たちの間にある相互の関心と、召会の間にある相互の交わりを見せています。

**OL4:**男の子が神の御座に携え上げられた後、天で戦いがあり、サタンとその使いたちは地に投げ落とされ、神の王国が現れます。**OL5:**勝利を得た信者たちとサタンとの戦いは、実はサタンに対して主の裁きを執行することです。最終的に、彼らの戦うことを通して、サタンは天から投げ出されます。男の子の携え上げは召会時代を終わらせ、王国の時代を導入します。

**啓 12:5** 彼女は一人の子、男の子を産んだ。この子は鉄の杖で、すべての諸国民を牧養することになっている。彼女の子供は、神に、神の御座に携え上げられた。**11 兄弟たち(勝利者たち)は、小羊の血のゆえに、また彼らの証しの言のゆえに、彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛さなかった。**

私たちは過去、自分のかんしゃくに悩まされた時はいつも、まずそれを告白し、それから主に赦しを求め、主が助けてくださるよう祈りました。そして最後に、もう二度とかんしゃくを起こすまいと決心しました。私はこれを何回も経験しました。しかし、私たちはもうこれをすべきではありません。かんしゃくが起こってきたら、それを忘れてサタンに宣べ伝えるべきです。問題の根源(サタン)に行って、彼に宣べ伝え、「サタンよ、おまえは十字架上に釘づけられてしまっている」と言いなさい。

**適用:ビジネスパーソン・大学院生編**

**勝利者のランドマーク1,2,3,4:①小羊の血:**私たちの贖いのためである小羊の血は、私たちに敵対する悪魔のすべての訴えに神の御前で答え、私たちに敵対する悪魔に対して勝利を与えます。私たちは悪魔の訴えを感じ

る時はいつでも、この血を適用する必要があります。**②証しの言葉:**彼らの証しの言葉は、悪魔が主に裁かれてしまったことを証しする彼らの言葉です。悪魔の訴えを感じる時はいつでも、私たちは主がどのように彼をすでに対処してしまわれたかを、言葉で証しすべきです。私たちは悪魔に対する主の勝利を口に表して、宣言しなければなりません。**③自分の魂の命を愛さない:**アダムの墮落のゆえに、サタンは自らを人の魂の命、人の自己と結合しました。ですから、サタンに打ち勝つために、私たちは自分の魂の命を愛さず、むしろそれを憎み、それを否定すべきです。**④地方召会の中でからだのブレンディングの生活を実行する:**私たちがからだの実行上の表現としての正当な地方召会を持つ時はじめて、サタンは私たちの足の下に踏み砕かれます。

以下はリー兄弟のメッセージの中の勝利者の証しの言葉の具体例です。「男の子は生まれて御座に携え上げられる時、言います、『サタンよ、おまえは地上で私に打ち破られた。おまえはまだここで天に隠れているのか? 今私がここに来たのは、おまえに宣べ伝えるためだ! 地上で私がおまえに与えたメッセージを覚えていないのか?』...『サタンよ、おまえはもうここにはならない! 出て行け!』。この言葉が男の子によって発せられると、御使いの長ミカエルは、その御使いたちすべてを率いて龍と戦います。...次に、サタンが地を駄目にするために投げ落とされた後、私たちは下って来て、サタンに言います、『サタンよ、まだここにいるのか? もう一つ説教してやろう。今こそおまえがアビスに行く時だ』。千年王国の後、サタンは人類をそそのかして神に反逆させます。しかし私たちは言うでしょう、『サタンよ、よく聞け。これが最後の説教だ。今こそおまえは、おまえの運命—火の池へ行かなければならない』。...私はあなたがこのメッセージを読んだ後、敵に対して強い言葉で、こう言うことを望みます、『サタンよ、おまえは何年も私を欺いてきた。しかしこのメッセージを読んで、私の目は開かれた。私はもはや無関心であってはならないことを見た。サタンよ、おまえは神の敵であるだけでない。おまえは私の敵でもある。今から後、私は私の主に絶対的である。私は決しておまえに耳を傾けない』。

**兄弟の証し:**私はリー兄弟の務めのメッセージを読んで、聖書を根拠にしたリー兄弟のメッセージと私のビジネスライフが大きく乖離(かいり)していることに気付きました。サタンを脅かすはずの私(キリストのからだの肢体)が、いつもサタンに脅かされていたのです。例えば、ネヘミヤはモアブ人とアンモン人のリーダーたちがネヘミヤとユダヤ人を侮って、『あなたがたは王に反逆しようとするのか?』と言った時、ネヘミヤは『天の神ご自身が、私たちを繁栄させてくださるのだ。それゆえ、彼のしもべである私たちは、起き上がって建てるのである。しかし、あなたがたにはエルサレムで何の分け前も、権利も、記念もない(2:20)』と進取的に言い返しました。このような時、もし以前の私であれば脅されると直ぐ引き下がってしまったと思います。ビジネスライフでも、このような状況は多くありました。しかし、務めのメッセージから照らされ、サタンが脅して来るたび、『サタンよ、なぜ私はお前を恐れなさいといけないのか。お前こそ、私を恐れなさい。お前は嘘つきの父であるので、私はお前の脅しには

乗らない。お前の居場所は、十字架である。十字架に  
帰れ』と言うことができるようになりました。ハレルヤ!」